

# たはら 歴史探訪 クラブ 其の57

TAHARA  
History Inquiry  
Club

幻の建築家 永瀬狂三

今回は、田原市内に残る数少ない永瀬狂三の作品を紹介しましょう。一つは、昭和9年建築の華山文庫（木造瓦葺2階建）です。華山文庫は、渡辺華山の遺品および作品を展示するため、田原城二ノ丸櫓跡に建設されたもので、外観も在来の木造建築とは異なり、近代的な和風外観を目指したものです。内部は外観と違い、輸入材を使った洋風の内装となっています。現在は、位置を移動して城内の田原市博物館横に建てられています。今でこそ和風外観の住



田原市博物館の横にある華山文庫

行き交う人々にとって憧れの建物だったことでしょう。田原を代表する優秀な建築として評価されます。

このような優秀な建築家である永瀬の人物像がとも気になります。東京大学に保存されている彼のスクラップブックには、その一面を知る新聞記事の切り抜きが残されています。

彼の風貌は、ヒゲをたくわえ飄々としています。その風貌どおり、新聞には「狂三」とそのよほど変わった名前の由来を、論語の「中行を得ざれば必ずや狂狷乎」にあると記しています。また、記事には「部屋の扉にはノックせずに入ってください」と張り紙を出す彼の気取らない人柄とともに、常識的でユーモア溢れるエピソードを紹介しています。

建築家永瀬狂三は、その知名度に比べ、田原の人たちにはほとんど知られていません。このままでは永瀬の業績も風化するのではないかと、このたび紹介することとなりました。（増山）

文化財課 ☎23局3531

このコーナーでは、身近な史実に目を向け、そこから学ぶという視点で、田原市の歴史・文化・風俗などを紹介しています。



本町の落ち着いた敷地の空間に佇む洋館